

捕獲事業実施位置図

管=管理、モ=モニタリング

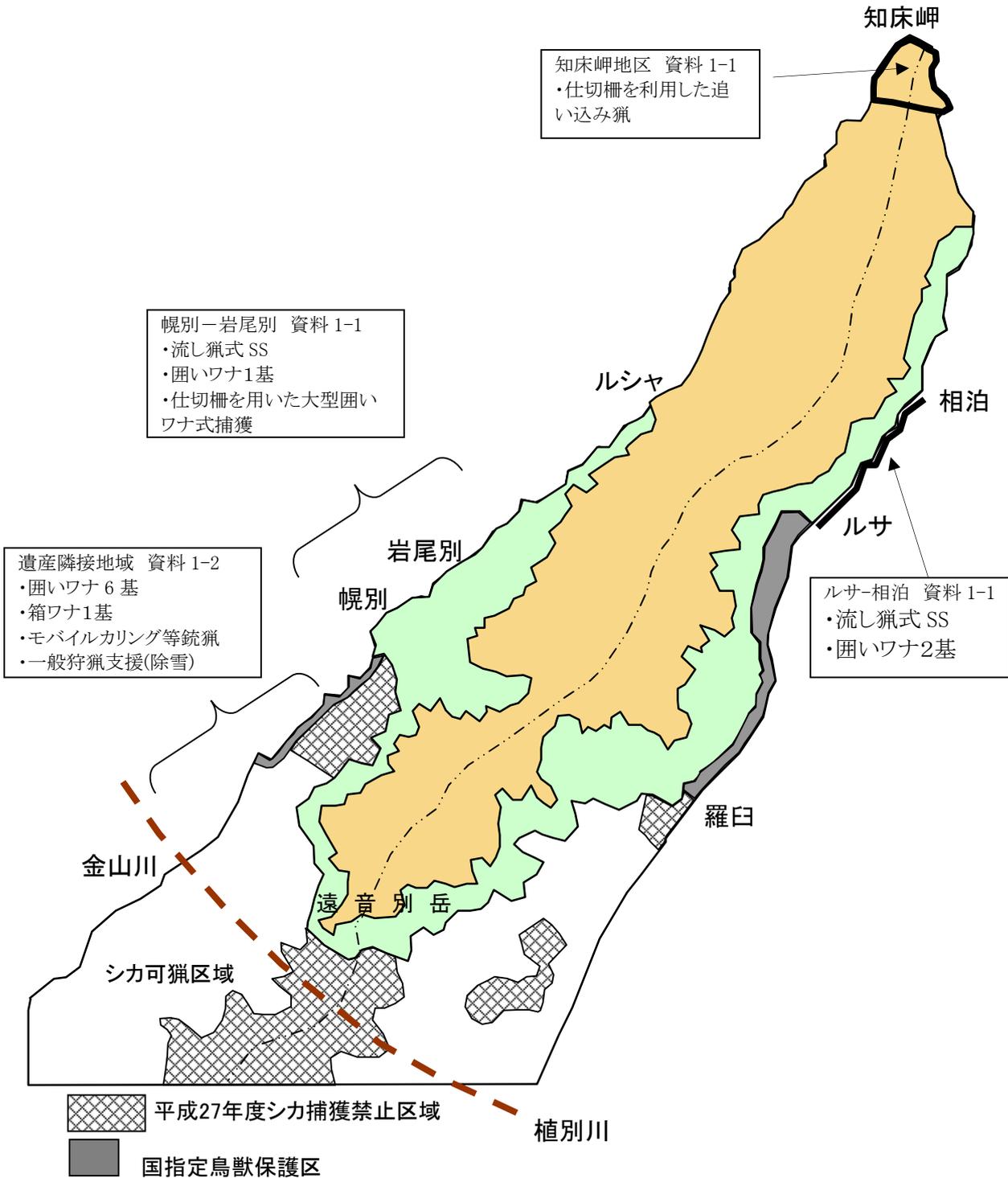


図 1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号は本文に対応。

(対象地が広範に分布するものについては記載せず)

H27 シカ年度エゾシカ捕獲事業(遺産地域) 案

A. 知床岬地区

表 1. 知床岬先端部における航空センサスカウント数とセンサス後の捕獲数など

シカ年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
センサスカウント数	447	399	374	246	265	56	59	130	①
センサス後捕獲数	99	72	158	57	216	32	9	88	②
捕獲後生息数	348	327	216	189	49	24	50	42	①-②
捕獲後生息密度(/km ²)	50	47	31	27	7.0	3.4	7.1	6.0	(①-②)÷7
翌冬推定生息数	418	392	259	227	59	29	60	50	(①-②)×1.2

1. 経緯

- ・ H26 シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、前年度からは若干減少し 6.0 頭/km²となり、目標の 5 頭/km²を達成できず。
- ・ H26 シカ年度の航空センサスカウント数 (130 頭) が H25 シカ年度時点での翌冬推定生息数 (60 頭) の 2.2 倍となり、南側から多数のシカの流入があったと推定された。
- ・ 流氷期にヘリコプターを移動手段とした 1 泊 2 日の捕獲 (3 月 8~9 日) で 57 頭を捕獲したが、4 月 9 日と 25 日に実施した日帰り捕獲では合計 2 頭のみ捕獲となった。5 月 17~19 日及び 6 月 8~10 日に実施した少人数 (4~5 名) の待ち伏せ狙撃では、合計 29 頭を捕獲した。シカの出没時間が薄明薄暮に偏っているため、今後は日帰り捕獲による成果は望めないと考えられる。

2. 方針

- ・ H27 シカ年度は基本的に宿泊で、朝夕の時間帯に集中してシカの捕獲を行う。ヘリコプターを移動手段とした 1 泊 2 日の捕獲 (射手 15 名程度の巻き狩り) を 2~3 月中に 1 回実施。その後、4~5 月中に少人数 (射手 5 名程度) による待ち伏せ狙撃を、2 泊 3 日で 2~3 回程度実施する。
- ・ 前年実績から岬地区への流入数は 70 頭程度と推定される。密度低下のために、流入数程度を捕獲目標とする。

※捕獲目標頭数合計: 70 頭

3. 捕獲事業内容案（知床岬地区）

①. 流水期 へり捕獲（中規模隊 宿泊） 1回（H26 シカ年度と同じパターン）

- 期間： 2～3月に1回（航空カウント終了後）。1～2泊。
- 人員規模： 15人程度
- 実施方法： 仕切柵を使った追い込み

②. 無積雪期 船捕獲（小規模隊 2～3泊） 2～3回（H26 シカ年度と同じパターン）

- 期間： 4～5月に2～3回。1回2～3泊程度
- 人員規模： 5人程度 + 犬
- 実施方法： 草原上狙撃・森林内忍び猟（ストーキング）
犬による仕切り柵を利用した追い込み
- 特記事項 トレッカーや漁業者に対する安全対策

*死体回収は、後日船により人員規模10名程度・日帰りで実施。

B. ルサー相泊地区

1. 経緯

- ・ 相泊囲いわなでは一昨年度 116 頭を捕獲したが、昨年度は大雪の影響で捕獲できなかった。相泊周辺は依然高密度。
- ・ ルサ囲いわなは、継続して 5 年目であった昨年度は、捕獲頭数が若干増加。
- ・ 流し猟式 SS では昨年度 52 頭を捕獲した。3 月は大雪の影響で捕獲できなかった。
- ・ H26 シカ年度の航空センサスカウント数 (U12+U13 で 120 頭) から、生息密度は 5.4 頭/km² となり、第一段階目標の 5 頭/km² は未達成。

2. 方針

- ・ 今年度も囲いわなと流し猟式 SS を併用。
- ・ 相泊囲いわなは同じ場所に再設置する。ルサ囲いわなは残置されており、今年度も稼働。
- ・ 流し猟式 SS は 12 月から餌付けを実施するが、3 月中旬～4 月を重点実施期間とする。シカの出現状況等によっては 2 月～3 月上旬は捕獲を休止。1 月末まで行われる、相泊での法面工事との調整が必要。

※捕獲目標頭数合計：約 210 頭

3. 捕獲事業内容案

①. 囲いわなによる捕獲 (既設 1・再設置 1)

- 期間： 相泊は 12 月に再設置
12 月～馴致・餌づけ。
12 月下旬～3 月末まで捕獲(ルサはヒグマに注意しつつ 4 月末まで)
- 実施候補地：ルサ川左岸(既設)、アィドマリ川河口付近 (再設置)。
- 検討事項： 部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応。
特にルサは遠距離からの誘引方法。
- 捕獲目標頭数：ルサ約 30 頭、相泊約 120 頭(ルサ H26 シカ年度実績、相泊 H25 シカ年度実績)。

②. 流し猟式 SS

- 期間： 12月中旬～餌づけ
1月中旬～4月末に週1回程度捕獲(1月末まで行われる、相泊での法面工事との調整要)
※2月～3月上旬に捕獲効率が低下する場合は、捕獲を休止し餌付けのみとする。
- 実施候補地： 道道知床公園羅臼線沿い(北浜～相泊間約7km:H24-26シカ年度と同様)。
- 検討事項： 2～3月の捕獲休止、再開の判断。
4月の捕獲実施時間をさらに遅い時間に変更(14時半～17時半→14時45分～17時45分)。
1月末まで行われる相泊での法面工事との調整。
- 捕獲目標頭数： 約60頭(H26シカ年度実績)

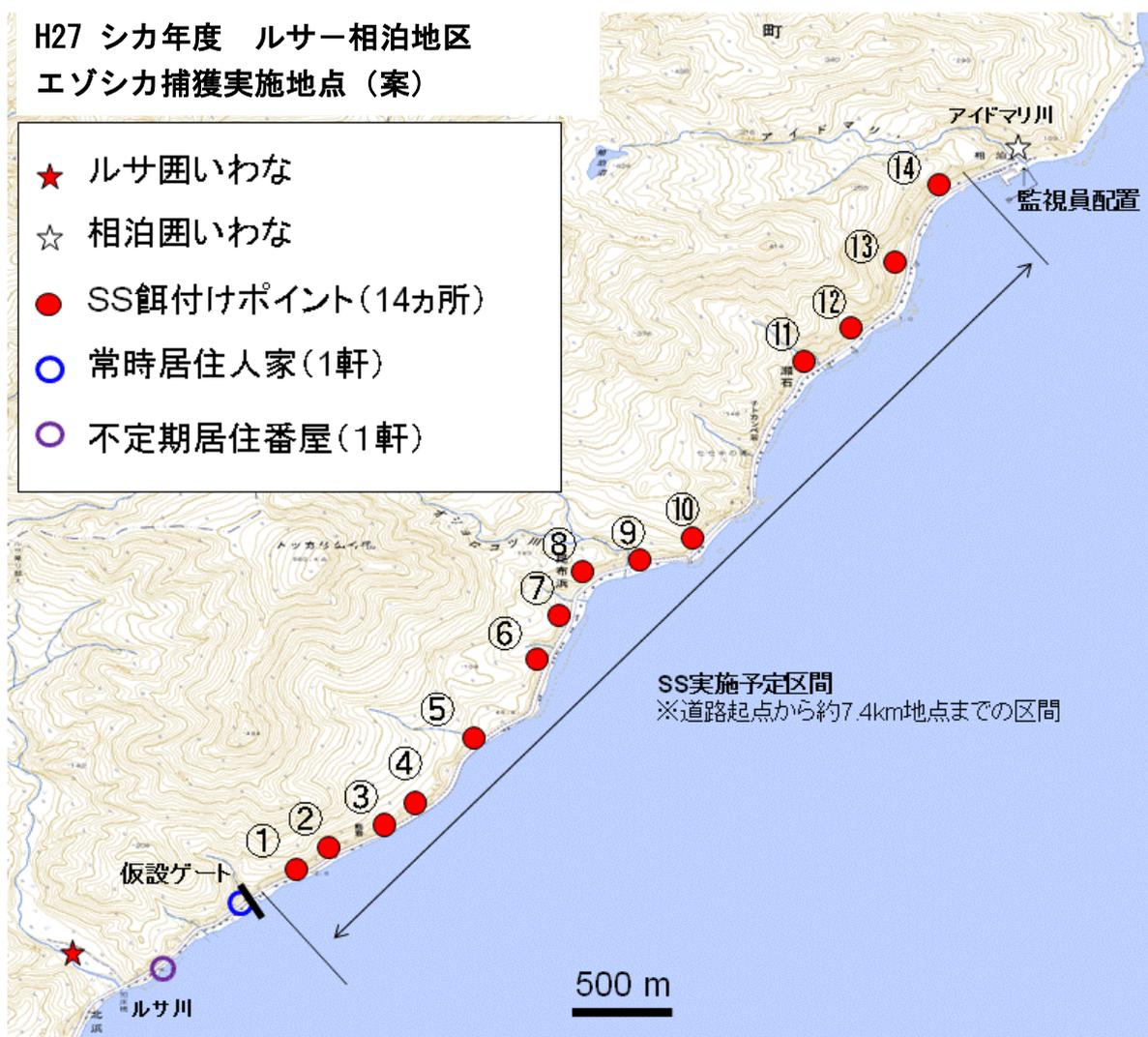


図1. ルサー相泊地区におけるH27シカ年度のエゾシカ捕獲事業実施予定地点

C. 幌別-岩尾別地区

1. 経緯

- ・ H26 シカ年度の航空センサスカウント数 (U04+U06+U06 で 187 頭) から、生息密度は 5.7 頭/km²となり、第2段階目標の 5 頭/km²は未達成。

岩尾別

- ・ 仕切柵による捕獲では 46 頭を捕獲。2 年間で合計 133 頭を捕獲し、仕切柵周辺のシカ生息密度は大幅に低下したと見られるが、今後、周囲から流入する可能性あり。
- ・ 岩尾別川河口では、囲いわなで 22 頭、流し猟式シャープシューティングで 15 頭捕獲。河口右岸側斜面には 60 頭程度の群が残っている。囲いわなは 3 年経過し捕獲効率が低下している。
- ・ 五湖高架木道上からの狙撃では捕獲なし。五湖周辺では主にオスが生息。

幌別

- ・ 幌別川囲いわなで 94 頭を捕獲。捕獲扉の向きを山側に変えたことで、1 年目より捕獲数が上がった。2 年間で合計 177 頭を捕獲したが、周辺（特に幌別の国道沿い法面、ウトロ東山側）には多数のシカが生息。

2. 方針

岩尾別

- ・ 岩尾別川河口に集結する群れの捕獲に重点を置く。囲いわなは設置せず、流し猟式シャープシューティングでの捕獲を行う。早い時期（12 月）から餌付けを行い、十分な順化期間を設定する。
- ・ 岩尾別台地海岸沿いに分布するシカを仕切柵に誘導し捕獲する。餌付けを海岸線沿いの広範囲に行う。
- ・ 五湖周辺はオスが主体のため高架木道狙撃は実施しない。

幌別

- ・ 幌別囲いわなは、前年度の規模と配置で捕獲を継続する。

※捕獲目標頭数合計： 約 130 頭

3. 捕獲事業内容案

岩尾別

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲

- 期間： 12～4月
- 実施候補地： 岩尾別地区(海岸側ササ地)
- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。
- 検討事項等： 自動落下式ゲートと手動捕獲を組み合わせる。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲の補助とする。捕獲個体の追い込みにかかる労力を低下させるため、少数頭の場合は死体搬出を優先する。
- 捕獲目標頭数： 約20頭(前年度実績の50%程度)

②流し猟式SS(積雪期・岩尾別川河口)

- 期間： 2～3月(1月から餌付け、2月から週1回程度捕獲)
- 実施候補地： 岩尾別ふ化場取り付け通路(約0.6km)
- 検討事項：
- 捕獲目標頭数： 約40頭(前年度の同所における最大確認頭数の70%程度)

幌別

①囲いわなによる捕獲(再設置1箇所)

- 期間： 12月中に再設置、1月～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 幌別川河口(再設置・3年目)
- 仕様等： 自動落下式ゲート(AC電源方式)。壁面を高さ4mとして除雪を省力化。
- 検討事項等： 見晴橋(距離約500m)およびウトロ東付近からの誘引。
- 捕獲目標頭数： 約70頭(前年度実績の70%程度)

4. 今後の検討課題

- ・ 幌別地区の断崖(フレペの滝～ポロピナイ)に分布するシカに関しては捕獲圧が不足。囲いわな設置適地がなく、通年の観光利用があるなどの制限要因があるため、今後、当エリアに適した捕獲方法の検討が必要。

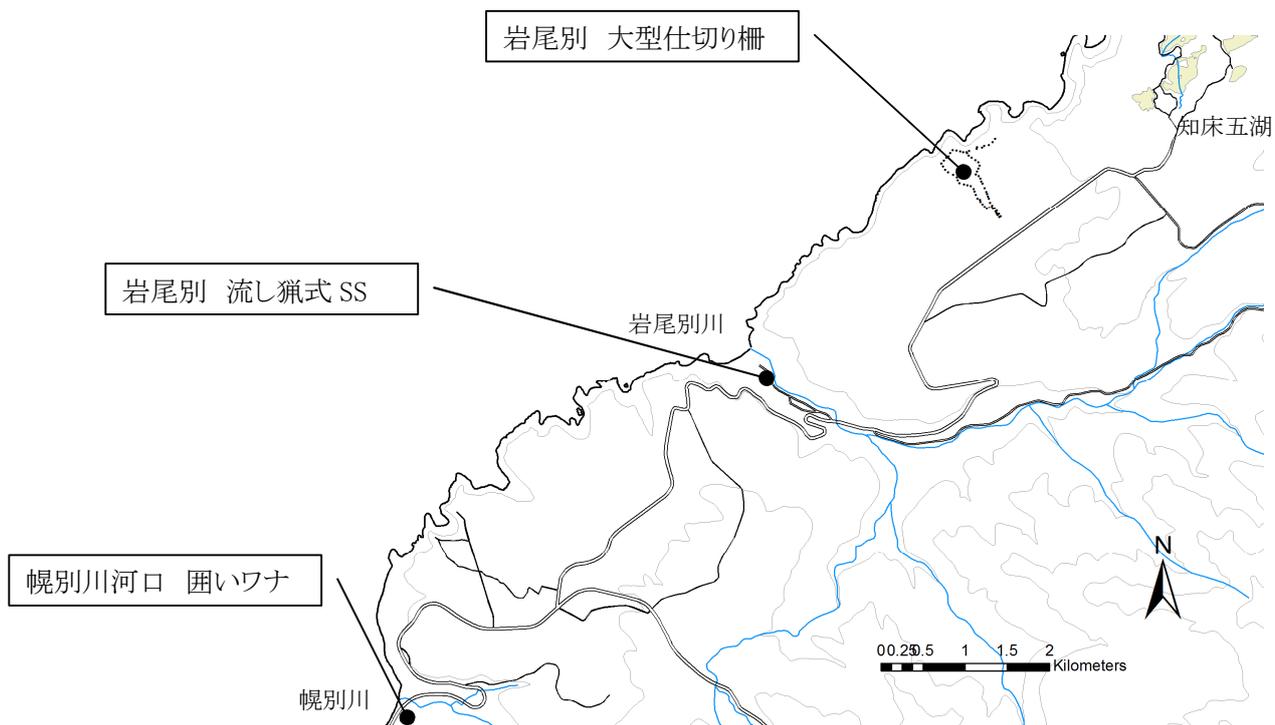


図 2. 幌別ー岩尾別地区における H27シカ年度のエゾシカ捕獲事業実施予定地点

表 2. 平成 27 シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ捕獲事業（案）

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
			シカ季節移動		流水期 積雪十分に		猛禽繁殖期		シカ季節移動	
				岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬						
モニタリング			スポットライトセンサス (秋期集中)		航空カウント (半島全域)			スポットライトセンサス (春期集中)		
A 知床岬	1. 流水期 へリ・中規模・宿泊 1 回	仕切り柵 補修				航空カウント後 宿泊へリ捕獲 1 回				死体回収
	2. 無積雪期 船・小規模・宿泊 2～3 回							無雪期・宿泊・船捕獲 2～3 回		
B ルサ・相泊地区	1. 罠いワナ (アイドマリ川河口 再設置) (ルサ川左岸 既設)	設計、補修 など		馴致・餌付け ワナ設置工事		餌付け+捕獲		アイドマリ川河口のワナ解体		
	2. 流し猟式SS (北浜-相泊)	路上発砲の 関係機関交渉		馴致・餌付け		餌付け+捕獲 (道道知床公園羅白線) 週 1 回程度捕獲		シカ 道路法面に集中		
C 幌別・岩尾別地区	1. 仕切柵を用いた大型罠いわな式捕獲 (岩尾別)			馴致・餌付け 改修		餌付け+捕獲		シカ海食台地縁、道路法面に集中		
	2. 罠いわな (幌別川河口 再設置)	設置交渉 ワナ設計		設置工事 馴致・餌付け		餌付け+捕獲		ワナ解体		
	3. 積雪期流し猟式SS (岩尾別ふ化場通路)		関係機関との調整、協議	馴致・餌付け		餌付け+捕獲		→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了		